

地域連携自主防災事業

栗ヶ沢中学校地域防災委員会

危機管理課

# 活動状況報告書

1 事業名称 地域連携自主防災事業

2 実施主体

- 団体名： 栗ヶ沢中学校地域防災委員会
- 従事者数： 約50名
- 団体概要： 栗ヶ沢中学校地域の全11町会が集い、地域防災について話し合っている。目的は大地震災害時の収容避難所開設運営と地域の要支援者に対する救護活動。委員の中から8名の推進事務局員を選出し、栗防活動の企画立案および渉外交渉を行なっている。
- 事業担当課： 危機管理課

3 事業を実施する上での役割分担

- 団体の役割  
自主防災に関する告知事業、避難所開設運営訓練の実施
- 担当課の役割  
戸市内自主防災組織との交流、地域の要配慮者支援会議の開催

4 事業の内容

※ 実施した事業内容について、事業毎に整理した上で記載してください。

I 自主防災に関する講演会の実施

日付	作業内容
9月9日	講演会打ち合わせ(栗防委員会)
10月28日	講演会打ち合わせ
11月27日	チラシの印刷(添付資料参照)
12月9日	講演会「女性・子ども・地域・防災」実施、講師青木八重子氏(流山子育てプロジェクト代表)、パネラーとして山田美和氏(MamaCan代表)、柴崎まなみ氏(小金原八丁目防災リーダー)、今泉まみ氏(子育てママ)、参加者約80人。会場は栗中食堂二階。

II 避難所開設運営訓練の実施

日付	作業内容
6月17日	訓練打ち合わせ(推進事務局)

7月8日	訓練打ち合わせ(栗防委員会)
9月3日	訓練打ち合わせ(推進事務局)
9月9日	訓練打ち合わせ(栗防委員会)
9月16日	訓練打ち合わせ(栗中小委員会)
9月30日	訓練打ち合わせ(栗中小委員会)
10月24日	訓練打ち合わせ(小金保健センター)
10月28日	訓練打ち合わせ(栗中小委員会)
11月18日	訓練前日準備
11月19日	訓練当日、参加者約100名。初めて体験型の訓練を行い、防災用品に関する展示や六種類の簡易トイレを経験してもらった。会場は栗中体育館。訓練チラシは添付資料参照。

### III 松戸市内自主防災組織交流会の実施

日 付	作 業 内 容
6月17日	交流会打ち合わせ(推進事務局)
7月8日	交流会打ち合わせ(栗防委員会)
8月29日	交流会開催、参加者約50名。参加団体は中金杉自治会、六高台三丁目町会、コミュニティ五番街、栄町四丁目町会、幸谷町会、三ヶ月町会、新松戸中央パークハウス管理組合、小金北地区防災組織、栗防、危機管理課。

### IV 要配慮者支援会議の開催

日 付	作 業 内 容
4月24日	分科会1(小金原市民センター)
4月27日	分科会3(小金原市民センター)
5月10日	分科会2(小金原体育館)
5月12日	分科会4(旭神経内科)
6月13日	打ち合わせ(危機管理課)
6月17日	打ち合わせ(推進事務局)
7月10日	分科会1(旭神経内科)
7月20日	分科会3(小金原市民センター)
7月25日	分科会4(小金原体育館)

7月27日	分科会2 (小金原市民センター)
9月12日	分科会1 (小金原体育館)
9月26日	分科会4 (小金原市民センター)
9月28日	分科会2 (小金原市民センター)
10月5日	分科会3 (小金原市民センター)
12月12日	分科会1 (小金原体育館)
12月14日	分科会3 (小金原市民センター)
12月19日	分科会4 (小金原体育館)
1月18日	分科会2 (小金原市民センター)
2月1日	打ち合わせ (危機管理課)
2月23日	要配慮者支援会議 (小金原体育館)、策定された小金原要配慮者支援マニュアルの概要版を資料として添付

#### V 防災に関する小冊子(栗防通信別冊)の発行

日 付	作 業 内 容
9月9日	打ち合わせ (栗防委員会)
12月9日	打ち合わせ (栗防委員会)
1月20日	打ち合わせ (推進事務局)
1月27日	打ち合わせ (推進事務局)
1月31日	第0版 (目次)
2月6日	第1版 (ラフ)の検討(栗防委員会)
3月14日	第2版 (ラフ)の完成
3月16日	第2版にて会社にデザイン発注
3月20日	初稿受け取り
3月22日	第二稿受け取り
3月25日	第三稿受け取り
3月26日	校了、印刷

#### 5 事業成果について

##### (1) 事業目的の達成について

- ① 栗ヶ沢中学校における開設運営訓練では、地域からの参加者を200人以上集める。

→ 残念ながら参加者はおよそ100名程度で目標に達することはできなかった。一方で、訓練内容の大きな見直しを行い、訓練に対する評価は87%の方から「よい」という評価を得た(過去の最高値は61%)。

② 要配慮者支援救護計画をまとめ、地域に提示できるようにする。

→ 危機管理課主導による計画をまとめ上げることができた。地域への提示を準備している。地域の介護施設や事業者との交流により面識を得、率直な意見交換は有益であった。

③ 地域に根ざした自主防災に関する小冊子(栗防通信別冊)を7500部作成し、栗中地域全体に配布する。

→ 掲載内容の選定に時間がかかり、年度末に慌ただしく行われたが、内容決定後は比較的スムーズに編集作業が進んだ。難しい内容は極力省き、防災(とくに自助)に必要な項目をシンプルに伝えることに注力した。

## (2) 取り組んだ課題の現状について

掲げた事業の目的は、

- 地域の自主防災組織(町会・自治会)が連携し、自主的な避難所運営を可能にする事、
- 地域が連携して救護活動を行えるようにする事、
- 防災に関する自助・近助の重要性の告知により住民意識を高める事、
- 市内自主防災組織の交流を密にする事、

の四項目である。今年度の事業は、これらの目的達成のため効果的であったと考える。

## 6 今後の事業展開

重要なことは、掲げた事業の目的の達成だけでなく、その事業の継続だと考える。来年度以降、活動資金は自己資金のみとなり、事業規模の縮小は避けられないが、少ない資金でのより効果的な方法を考え、実行していきたい。

(第6条関係)

### 収支決算書

【労力換算（限度額算入）】

(単位:円)

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 660,000	¥ 715,000	¥ ▲55,000	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	栗防抛出金	¥ 150,000	¥ 89,962	¥ 60,038	参加町会からの会費
	自己資金の合計額 (B)	¥ 150,000	¥ 89,962	¥ 60,038	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 500,000	¥ 500,000	¥ 0	←精算額
合計額 (D) = (B+C)		¥ 650,000	¥ 589,962	¥ 60,038	

【支出】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 60,000	¥ 40,000	¥ 20,000	外部講師謝礼 20,000円×1人 10,000円×1人、5,000円×2人
	印刷製本費	¥ 370,000	¥ 402,402	¥ ▲32,402	栗防冊子や遊藝訓練及び 講演会チラシ印刷
	消耗品費	¥ 120,000	¥ 118,918	¥ 1,082	収容避難所での簡易トイレやマスク他
	使用料	¥ 5,000	¥ 0	¥ 5,000	有償の会場費用が発生せず。
	通信費	¥ 5,000	¥ 0	¥ 5,000	インターネット等の通信手段で済ませたので、費用発生せず。
	対象経費の合計(E)	¥ 560,000	¥ 561,320	¥ ▲1,320	
(その他経費)	交通費	¥ 20,000	¥ 8,360	¥ 11,640	会員の交通費 760円×11人
	会議費	¥ 70,000	¥ 0	¥ 70,000	推進事務局会議の費用については使用料、印刷製本費、食料費にて計。
	使用料	¥ 0	¥ 5,422	¥ ▲5,422	推進事務局会議会場費、簡易無線電波使用料
	印刷製本費	¥ 0	¥ 3,643	¥ ▲3,643	資料印刷費
	食料費	¥ 0	¥ 11,217	¥ ▲11,217	委員会開催時の茶菓代
	その他経費の合計額(F)	¥ 90,000	¥ 28,642	¥ 61,358	
合計額(G) = (E+F)		¥ 650,000	¥ 589,962	¥ 60,038	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 0
-----	-----

団体名 栗ヶ沢中学校地域防災委員会

代表者氏名 委員長 小林 俊夫

## 収支内訳書

## 【事業費の収入額】

区分	科目	金額	内訳	摘要
団体	栗防拠出金	¥ 89,962		参加町会からの会費
	自己資金の合計額	¥ 89,962		
市	松戸市負担金	¥ 500,000		
合計額		¥ 589,962		

## 【事業費の支出額】

	科目	金額	支出内訳	説明事項（用途など）
負担金の 交付対象経費	報償費	¥ 40,000	20,000円*1人 10,000円*1人 5,000円*2人	講師謝礼（内訳） 青木八重子氏 20,000円×1人 山田美知氏 10,000円×1人 柴崎まなみ氏 5,000円×1人 今泉まみ氏 5,000円×1人
	印刷製本費	¥ 402,402		栗防冊子 349,920円 委員会議題等 49,132円
	消耗品費	¥ 118,918	簡易トイレ等5種類	事業用消耗品及び避難訓練消耗品
	使用料	¥ 0		有料会場費が発生せず
	通信費	¥ 0		インターネット等の通信手段で済ませたので、費用発生せず
	対象経費の合計	¥ 561,320		
その他経費	交通費	¥ 8,360		交通費 バス乗車運賃（行政センター～北小金） 電車運賃（北小金～松戸）1往復@760円×11
	会議費	¥ 0		推進会議の費用については使用料、印刷製本費、食糧費にて計上
	使用料	¥ 5,422		推進事務局会議会場費 2,947円 簡易無線電波使用料 2,475円
	印刷製本費	¥ 3,643		資料印刷費
	食糧費	¥ 11,217		委員会開催時の茶菓代
	その他経費の合計	¥ 28,642		
合計額		¥ 589,962		

## 労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×500円
	栗防委員会 (5回)	250,000 円	50 人 × 2 h × 5 回 × 500 円
	推進事務局打合せ	160,000 円	8 人 × 2 h × 20 回 × 500 円
	自主防災訓練	300,000 円	40 人 × 3 h × 5 回 × 500 円
	栗防通信別冊編集	5,000 円	1 人 × 1 h × 10 回 × 500 円
	合 計 (A)	715,000 円	

協働のまちづくり啓発事業

特定非営利活動法人まつどNPO協議会

市民自治課

# 活動状況報告書

## 1 事業名称 協働のまちづくり啓発事業

## 2 実施主体

■ 団体名： 特定非営利活動法人まつどNPO協議会

従事者数： 準備等主担当2名、当日18名

団体概要：

新しい地域社会創りの担い手として、松戸市で活動するNPO・市民活動の力を結集し、市民が自らの手で共に地域をつくる、誰もが暮らしやすい街“まつど”の実現を理念とし、「つながりづくり」「ひろがりづくり」「くらしづくり」に取り組んでいます。

■ 事業担当課： 市民自治課

## 3 事業を実施する上での役割分担

### ■ 団体の役割

- 講演会 企画運営業務全般（講師・パネリスト調整）
- 講演会一時保育料の支払
- 広報等媒体原稿制作
- ポスターセッション企画・団体調整等運営
- 事業報告書作成
- 協働のまちづくり／市民活動インタビュー記事制作
- 同インタビュー記事のWebコンテンツ制作・公開

### ■ 担当課の役割

- 協働推進員を中心とした市職員参加呼びかけ
- 市民参加者の把握
- 市民アンケート集計
- 会場の検討・確保（公用等手配）
- 町会への講演会開催情報の発信
- 市広報誌「広報まつど」掲載
- 市内公共施設を通じた講演会開催情報の発信
- 松戸市ホームページ・Twitter・facebook等、市の広報媒体への掲載

## 4 事業の内容

※ 実施した事業内容について、事業毎に整理した上で記載してください。

### I 協働のまちづくり講演会の実施

日付	作業内容
4月13日	担当課打ち合わせ

5月10日	団体内企画打ち合わせ（理事）
5月22日	担当課打ち合わせ
6月15日	担当課打ち合わせ
7月6日	担当課打ち合わせ
8月2日	担当課打ち合わせ
8月2日	団体内企画打ち合わせ（理事）
8月21日	担当課打ち合わせ
8月29日	担当課打ち合わせ
9月11日	中間ふりかえり
9月26日	コモンビート・安達氏打ち合わせ
10月3日	担当課打ち合わせ
11月4日	団体内企画打ち合わせ（理事）
11月15日	直前打ち合わせ
12月8日	公民館パネル搬出
12月9日	<p>講演会当日</p> <p>【日時】12月9日（土）13時30分～16時30分</p> <p>【会場】まつど市民活動サポートセンター 大会議室</p> <p>【テーマ】「まちづくり、あなたが動けば、仲間が見つかる。」</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 基調講演「私が楽しむと、街がよくなる。はじめの1歩の踏み出し方・受け止め方」 講師 安達 亮 氏(NPO 法人コモンビート 理事長)</p> <p>(2) パネルディスカッション 事例紹介 NPO 法人コモンビート、パトラン松戸、岩瀬自治会</p> <p>(3) ポスターセッション（市内市民活動団体PR） …認定NPO法人外国人の子どものための勉強会、NPO法人子どもっとまつど、NPO法人MamaCan、NPO法人松戸子育てさぼーとハーモニー、まつど子ども食堂の会、岩瀬自治会、パトラン松戸、認定NPO法人たすけあいの会ふれあいネットまつど、東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト、自立サークルFC、NPO法人人材パワーアップセンター、NPO法人まつどNPO協議会</p> <p>【出展団体】12団体</p> <p>【参加者数】45名 (写真別添)</p>
2月15日	年度ふりかえり

## II ポータルサイト準備の実施

日付	作業内容
11月24日	記事インタビュー (MamaCan)
12月9日	記事インタビュー (岩瀬自治会・パトラン)
1月24日	記事インタビュー (ユニークユニバース)
1月中旬～	補足インタビュー・校正作業
3月	掲載・ポータルサイトとしての開設準備

### 5 事業成果について

#### (1) 事業目的の達成について

##### ① 「協働のまちづくり講演会」の開催

- 講演会来場者数を 80 名、市民 60 名を目指す。また、市職員（勤務外）の参加を 20 名を目指す。

→ 講演会来場者数は 45 名にとどまった。後述のアワード中止に伴い、集客を考え講師・講演内容優先で調整を進めた結果、松戸駅近辺での開催は断念したことも若干影響はあったと思われるが、市民参加者は 40 名を越えた。

他方、市職員の来場者は 2 名に留まってしまった。庁内の情報発信として、Web ポータルの羅針盤や、各課の講演会などで呼びかけを担当課より実施したが、要件であった土日開催かつ研修としての参加が難しいことが影響した。

アワード・表彰による機運醸成、参加団体からの声掛けを期待した点が機能しなかったが、町会・自治会掲示板からの参加も 1/4 を超え、はじめて市民活動にふれる層への呼びかけとしては一定の効果があったと思われる。

なお、アワード中止という結果については、市担当課と協議を重ねる中で表彰に際して金品を伴わないほうがいい、ということが夏前より話があり調整を進めていたが、金品を公費より提供しないとしても一部団体に対して表彰をすることは年度当初から協議を進めたとしても難しく今回は見合わせたい、と市民自治課からの申し入れを 8 月に受け、アワード無しで進めることとなった。

- 市民活動アワード団体と出展団体に後日アンケートを実施し、講演会で活動参加につながったかを評価する。

→ 今回アワードは実施できなかったため、それと連動した評価は出来なかった。出展団体が参加しての成果については、好意的な回答を得ている。

##### ② 「市民活動ポータルサイト」準備

- 市民活動団体の訪問インタビューを 5 件以上実施し、多様な活動の情報を提供する。
- Facebook や Twitter、市ホームページを通じて市民活動や協働のストーリーを広める。
- Web ポータルサイトへのポスター等、紙媒体からの誘導を目指し、年間 15,000PV

を目指す。

→インタビューは4件実施。広報・拡散については継続実施を進めている。

年間PVとしては、全体で12,962PVを記録し、目標値まで達しないものの成果を上げることができた。

URL = <http://matsudo-npo.org/conte/> (昨年に継続)

紙媒体としては、3月発行の弊会会報をみらいフェスタ2018で配布するなど、広報活動を展開している。(資料添付)

## (2) 取り組んだ課題の現状について

背景となる地域課題としては「市民へのアンケート調査結果から、施策の認知度が低く、十分な意識啓発には至っていない」点、単年度の事業目標としては、「①市民が、地域にある課題やこれを解決するために活動している市民活動の存在を知ること」「②機会があれば、市民活動をしてみたいと考えるための足がかりになる情報提供」を設定していた。

本年度事業の目標①に関しては、市民来場者が少なくとどまったことから、定量的な評価はいまひとつに留まった。参加者の属性を深くみると、アンケート結果より4割近くが30代の参加で、60代以上の3割弱と比較しても、子育て世代・現役世代への情報提供には成功したといえる。

目標②に関しても、講師としてお呼びしたコモンビート・安達氏の興味深い多様な参加のデザインの話と、岩瀬自治会・パトランの市内の新しい動きを紹介することで、アンケート回答者はすべて共感したと回答していることから、来場者には足がかりを提供できた。

背景の課題である「施策の認知度が低い」点について、本年度及び過去2年度について、講演会という事業枠組みで、市民活動視点を盛り込んだプログラムの魅力最大化に取り組み、アンケートからプログラムへの満足度は高く、一定の成功を収めた。また、町会掲示板からの参加も多かったことから、「協働」「市民活動」というキーワードを目にした市民を、NPOとしての工夫で増やせたと考える。

他方、48万人口の松戸市で市民のまちづくりへの関心度を1.7ポイント(松戸市協働推進計画が目指す1年あたりの上昇目標)上昇させるためには、約8千人への情報提供が必要となる。講演会という事業枠組のみをもって達成するのは困難ではあるが、情報媒体への掲載や、講演会に参加して認知した市民が多様な市民活動に参加し、影響を拡散していくことを狙っていく必要がある。

## 6 今後の事業展開

本協働事業は3年実施する中で、協働のまちづくりの啓発に際し、3つのアプローチを取った。

H27: 市民活動団体関係者・一般市民・市職員が一堂に会し、協働に関する知識・事

例共有を通じて、膝をつき合わせ、顔の見える関係・信頼関係を築く

H28：2025年の松戸市を考えることをテーマに人口減少時代に行政がどう変わっていくか、行政職員のロールモデルについて共有・検討する

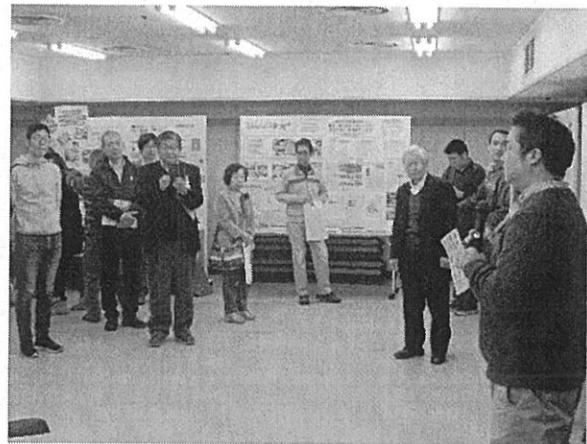
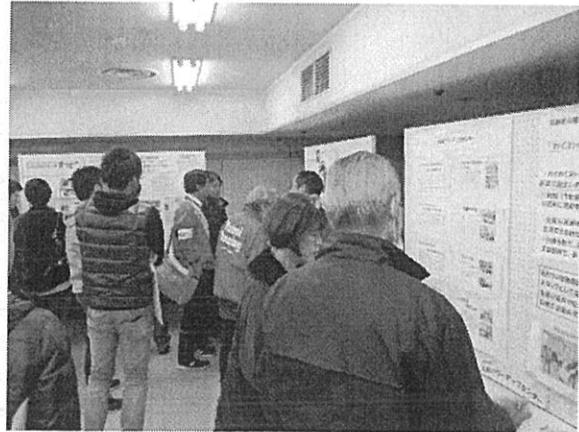
H29：「これなら私も参加できそう、取り組みそう」という先駆的なモデルを取り上げ、参加の機会を拡充する

市民対象の視点で、本年度の講演会では、土日開催をずることで、市民の新しい層に情報提供をすることができた一方、量的評価としては低い値に留まってしまった。行政リソースを使った町会掲示板や広報の周知は十分にし、またNPO側としても出来る情報発信はした上での結果であるので、テレビ出演レベルの著名人を呼ぶ内容でない限り、講演会という手法で啓発を実現するのは極めて難しいという結果であった。他方、講演会に来た人たちの反応・活動への関心は高いため、活動への入り口としての講演会と事例紹介、という質的には十分な役割を果たしている。

今後の啓発のあり方として、NPOとしてはWebや情報誌などの各種媒体や、みらいフェスタ等のアウトリーチイベントを通じて情報発信をすることで、市民活動の啓発に取り組み、参加の機会の際は各団体の受け入れ取り組みや立ち上げを支援することで取り組んでいきたい。

他方、H27、H28と異なり、本年度は「協働のまちづくり」に関し、市職員と市民とが同じ場で知識を得て、考えていく取り組みとしては、講演会参加は少なかつたため、同じ方向を向く機会とはなり得なかつた。団体として、職員研修の企画等に協力できる機会、今後積極的に取り組みたい。

平成 29 年度協働のまちづくり講演会 当日写真



(第6条関係)

### 収支決算書

(単位:円)

【労力換算(限度額算入)】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 203,000	¥ 124,000	¥ 79,000	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 23,900	¥ 16,547	¥ 7,353	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
				¥ 0	
				¥ 0	
				¥ 0	
	自己資金の合計額 (B)	¥ 23,900	¥ 16,547	¥ 7,353	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 179,100	¥ 118,136	¥ 60,964	←精算額
	合計額 (D) = (B+C)	¥ 203,000	¥ 134,683	¥ 68,317	

【支出】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 60,000	¥ 50,000	¥ 10,000	外部講師謝礼 30,000円×1回 10,000円×2回
	報償費(表彰金)	¥ 50,000	¥ 0	¥ 50,000	表彰プログラムが実施できなかったため。
	報償費(情報保障)	¥ 32,000	¥ 31,828	¥ 172	要約筆記3名、手話通訳2名
	消耗品費	¥ 10,000	¥ 2,402	¥ 7,598	保育用雑貨、紙コップ、要約筆記用文具
	食糧費	¥ 5,000	¥ 2,348	¥ 2,652	当日茶菓子
	印刷製本費	¥ 22,000	¥ 22,573	¥ ▲573	ポスター3500枚、A4告知チラシ2000枚、打合せ資料印刷 当日配布資料印刷
	委託費	¥ 20,000	¥ 22,112	¥ ▲2,112	デザイン料一式、保育委託
				¥ 0	
	対象経費の合計(E)	¥ 199,000	¥ 131,263	¥ 67,737	
(その他経費)	通信運搬費	¥ 1,000	¥ 1,620	¥ ▲620	支払手数料
	旅費交通費	¥ 3,000	¥ 1,800	¥ 1,200	駐車場代(講師打ち合わせ)
				¥ 0	
	その他経費の合計額(F)	¥ 4,000	¥ 3,420	¥ 580	
	合計額(G) = (E+F)	¥ 203,000	¥ 134,683	¥ 68,317	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金(C)が、対象となる経費(E)欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金(C)が、自己資金(B)欄に労力換算額(A)欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 60,964
-----	----------

団体名 特定非営利活動法人青とNPO協議会

理事長

代表者氏名 渡辺 洋子



## 収支内訳書

## 【事業費の収入額】

区分	科目	金額	内訳	摘要
団体	団体拠出金	¥ 16,547		事業費の一部を拠出
	自己資金の合計額	¥ 16,547		
市	松戸市負担金	¥118,136		
合計額		¥134,683		

## 【事業費の支出額】

	科目	金額	支出内訳	説明事項（用途など）
負担金の 交付対象経費	報償費	¥ 50,000	30,000円*1回 10,000円*2回	講師報償 安達亮氏 30,000円×1回 講師報償 岩瀬自治会 10,000円 講師報償 バトラン松戸 10,000円
	報償費（表彰金）	¥ 0		表彰プログラムが実施できなかったため。
	報償費（情報保障）	¥ 31,828		要約筆記3名 手話2名
	消耗品費	¥ 2,402		保育用雑貨、お茶用カップ 要約筆記用文具
	食糧費	¥ 2,348		当日茶菓子
	印刷製本費	¥ 22,573		ポスター3500枚、A4告知チラシ2000枚、打合せ 資料印刷、当日配布資料印刷
	委託費	¥ 22,112		保育料 ちらしデザイン費
	対象経費の合計	¥131,263		
その他 経費	通信運搬費	¥ 1,620		支払手数料
	旅費交通費	¥ 1,800		講師打ち合わせ時の駐車場料金
	その他経費の合計	¥ 3,420		
合計額		¥134,683		

## 労力換算計算書

(単位:円)

項目	換算額	積算内訳
活動計画		人数×時間回数×500円
担当課打ち合わせ (8回)	16,000 円	2 人 × 2 h × 8 回 × 500 円
企画打ち合わせ (3回)	15,000 円	5 人 × 2 h × 3 回 × 500 円
講師打ち合わせ	6,000 円	3 人 × 4 h × 1 回 × 500 円
直前打ち合わせ	4,500 円	3 人 × 3 h × 1 回 × 500 円
講演会当日	18,000 円	6 人 × 6 h × 1 回 × 500 円
当日出展関連	18,000 円	12 人 × 3 h × 1 回 × 500 円
振り返り (担当課) 打ち合わせ	2,000 円	2 人 × 2 h × 1 回 × 500 円
報告書制作	16,000 円	2 人 × 16 h × 1 回 × 500 円
団体ヒアリング・原稿起こし	13,000 円	1 人 × 2 h × 13 回 × 500 円
市民活動団体 インタビュー対応	6,000 円	2 人 × 3 h × 2 回 × 500 円
広報活動	8,000 円	2 人 × 2 h × 4 回 × 500 円
Web掲載作業	1,500 円	1 人 × 1 h × 3 回 × 500 円
合計 (A)	124,000 円	

労力換算額

子どもたちがつくる青少年会館居場所事業

だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会

生涯学習推進課 青少年会館

# 活動状況報告書

1 事業名称 子どもたちがつくる青少年会館居場所事業

## 2 実施主体

■ 団体名： だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会

従事者数： 3名（ボランティア延べ人数 377、協力団体数 7）

団体概要：

だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会は、市内の子どもの育ち・学びに関連するNPOのネットワーク組織で、これまで秋を中心に17回、小学生を対象にした遊びと、中学生～学生世代のボランティアマッチングをしたフェスティバルを、青少年会館と共に開催してきた。

■ 事業担当課： 生涯学習推進課 青少年会館

## 3 事業を実施する上での役割分担

■ 団体の役割

全体企画・運営（当日）

ボランティアコーディネート

活動消耗品の手配

チラシ・ポスター等広報物作成

事業報告書制作

■ 担当課の役割

参加者受付・集計

文化祭用看板関連材料提供

スポーツ・アートの会館利用団体の紹介・講師協力調整

チラシ等の簡易印刷

アンケート等集計

会場確保

## 4 事業の内容

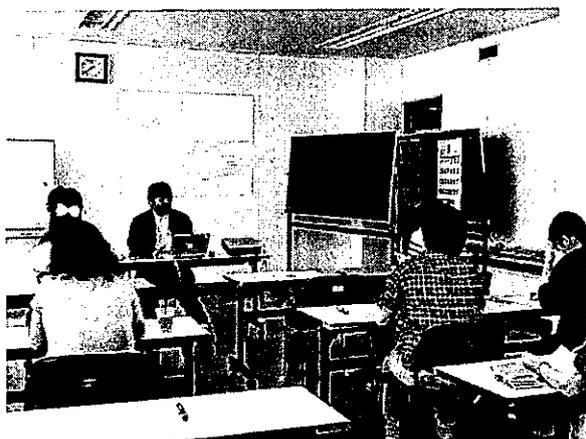
◆ 企画打ち合わせ等

日付	作業内容
4/25	事業企画打ち合わせ
5/9	事業企画打ち合わせ
5/25	事業企画打ち合わせ
6/16	三者協議
9/5	中間振り返り
9/19	事業企画打ち合わせ
10/3	事業企画打ち合わせ

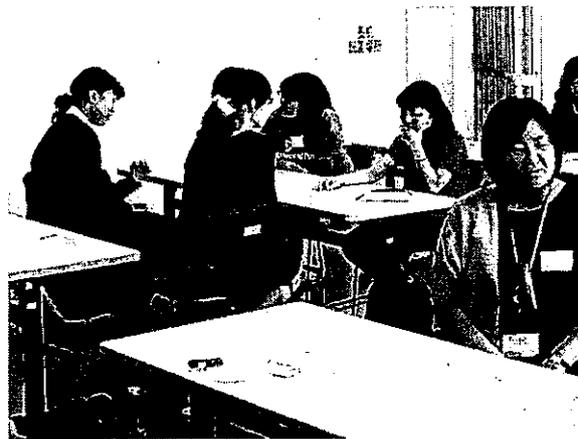
10/5	ダンボールトンネル講師打ち合わせ
11/24	事業企画打ち合わせ
1/18	事業企画打ち合わせ
2/16	三者ふりかえりの会
3/9	事業企画打ち合わせ

### I. 子どもに関わる担い手育成プログラム（当日実施分）

日付	作業内容
6/3	連続講座「子どもたちと本気で遊ぼう&声かけ上手に」 会場＝青少年会館、講師＝NPO 法人ディープデモクラシー・センター
6/10	連続講座「ひとりひとりを大切に、相手も自分も心地よく」 会場＝青少年会館、講師＝NPO 法人子どもの環境を守る会 J ワールド



6/3・相手に合わせた声のかけ方

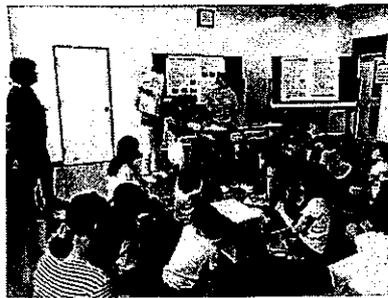


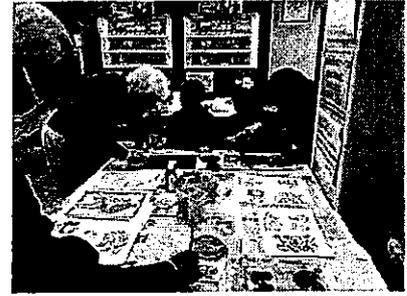
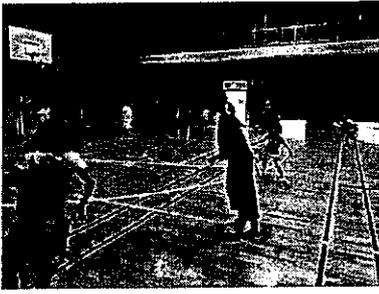
6/10・ひとりひとりを大切に

### II 子どもとの体験プログラム&ロビーワーク（当日実施分）

日付	作業内容
【夏休みは遊びの基地☆青少年会館へ】	
7月21日	体操&ダンス
7月26日	空手
7月26日	バドミントン
7月28日	バドミントン
7月30日	段ボールオープンでピザを作ろう
8月2日	昆虫に詳しくなろう

8月4日	折り紙
8月7日	ミニサッカー
8月9日	紙トンボ&エコトイづくり
8月11日	科学実験「空気と水の実験」
8月15日	みんなで遊ぼう
8月17日	点字入りマイ名刺を作ろう
8月19日	みんなで遊ぼう
8月22日	卓球
8月24日	折り紙・ミニサッカー
8月26日	紙芝居
8月29日	卓球
【文化祭「ダンボールどきどきとんねるを、作ってみよう!」	
10月12日	顔あわせ&イメージしてかんがえよう!
10月15日	ダンボールをもらいにいってあつめよう! (雨により、室内でミニトンネル試作)
10月19日	ミニ・ダンボールトンネルをつくって「しかけ」をつくってみよう!
10月26日	ダンボールめいろの「かんばん」をつくろう!
11月1日	ダンボールトンネルづくり
11月2日	
11月3日	青少年会館文化祭当日
【青少年会館 de クリスマス会】	
12月16日	クリスマス会
【アートパフォーマンス祭・制作企画】	
1月25日	パンダで版画! 組合せで広がる絵の世界づくり①
2月3日	好きな字を、「かっこよく」書こう!
2月8日	パンダで版画! 組合せで広がる絵の世界づくり②
2月24日	アートパフォーマンス祭り・展示当日





## 5 事業成果について

### (1) 事業目的の達成について

#### ①子どもに関わる担い手育成プログラム

講座定員を 50 名として実施し、継続的に本事業に加わるボランティアを 8 名程度確保する。

講座定員 50 名に対し、受講者は延べ 32 名だった。

講座から、夏休みプログラムや、共同制作プログラムに 3 名はつながったものの、8 名には達しなかった。

#### ②子どもとの体験プログラム&ロビーワーク

定期的に参加し、興味を持つ小学生、互いの「顔が見える」関係の参加者が 10 人程度となるよう、支えていく。

→ ほぼ達成した。

夏休み期間では、平均 22 人 (3~48 人) の参加があり、連続参加の缶バッジを手に入れた子ども数十名を超える参加につながった。中でも、友達同士で来る参加者だけでなく、活動の中で一緒にスポーツやものづくりなどに取り組む中で、交流が生まれていた。

また、ロビーに出入りする子どもたちと本事業スタッフ・青少年会館職員との関係性を構築できた。

本プログラム参加者を「青少年会館キッズメンバー」として登録、登録者全体が 50 人程度を目指す。

→ 達成した。

夏休みのプログラムだけで、延べ 422 名の参加があり、スタンプの個数が概ね 6 個程度が平均だったことから、70 人程度がキッズメンバーとしてカウントできた。

### (2) 取り組んだ課題の現状について

※解決できたこと、解決できなかったことを記載してください。

#### 課題（企画書より）

子どもの成長には「時間」「空間」「仲間」の「サンマ（3つの間）」が大切とされているが、松戸をはじめとする都心近郊の地域社会では、都市開発や防犯・遊びの産業化による変化によって、「サンマ」が得にくく、身の回りに少なくなってしまうている。

そこで本事業では、より仲間を広げたり、地域の人たちとふれあったりするため、体験を通じて子ども同士がつながる取り組みへの必要性に応える、市民と青少年会館が協働する本事業を提案する。

#### 目標（企画書より）

- (1) 小学生同士のつながり・仲間づくりを目指す「サンマ」の提供
- (2) 子どもに関わる担い手育成による持続的なコミュニティ形成
- (3) 青少年会館という拠点を核とした世代間交流

本事業を通じて、(1) 小学生同士のつながりや仲間づくり、(2) 子どもに関わる担い手育成の実施、(3) 青少年会館利用団体も含めた、子どもからシニアまでの世代間交流については、ほぼすべて達成できた。こういった場をいかに増やし、体験を通じて交流するためのしかけ・質をどう高めていくかについては、より発展的に考えていく必要がある。

(2) の担い手育成から、学生の担い手コミュニティ形成は取り組んだものの継続的な関係と持続にはつながりづらかった。事業実施のタイミングと巻き込み方をさらに工夫することで、高校生・学生世代の参画したコミュニティづくりには課題が残る。

## 6 今後の事業展開

※解決できなかった課題にどう対応し、この事業を今後どのように展開していきたいのかを記載してください。

平成30年度も協働事業の2年目実施が決まったため、上記課題についてアイデアを出して取り組んでいく。

## 収支決算書

【労力換算（限度額算入）】

(単位:円)

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 226,000	¥ 185,500	¥ 40,500	※別紙 労力換算計算書 参照

【取入】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 0	¥ 0	¥ 0	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	小学生実費負担	¥ 10,000	¥ 12,500	¥ ▲2,500	夏休み
		¥ 6,000	¥ 3,000	¥ 3,000	クリスマス
	自己資金の合計額 (B)	¥ 16,000	¥ 15,500	¥ 500	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 122,200	¥ 56,768	¥ 65,432	←精算額
	合計額 (D) = (B + C)	¥ 138,200	¥ 72,268	¥ 65,932	

【支出】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 20,000	¥ 20,000	¥ 0	講演研修会講師謝礼
	消耗品費	¥ 50,000	¥ 7,974	¥ 42,026	板造紙・付箋紙等会場掲示物作成、コピー用紙等
		¥ 25,000	¥ 12,817	¥ 12,183	調理体験・食材、段ボールオープンセット
		¥ 10,000	¥ 6,997	¥ 3,003	缶バッジ制作キット
	食糧費	¥ 13,200	¥ 0	¥ 13,200	ボランティアお茶代等（協働事業としては支出無し）
	印刷製本費	¥ 10,000	¥ 9,430	¥ 570	研修&ボランティア募集3000枚
		¥ 10,000	¥ 15,050	¥ ▲5,050	夏休みチラシ、輪転印刷・コピー代
		対象経費の合計 (E)	¥ 138,200	¥ 72,268	¥ 65,932
(その他経費)					
	その他経費の合計額 (F)	¥ 0	¥ 0	¥ 0	
	合計額 (G) = (E + F)	¥ 138,200	¥ 72,268	¥ 65,932	

## 【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 65,432
-----	----------

団体名 だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会

代表者氏名 実行委員長 渡辺 洋子

## 収支内訳書

## 【事業費の収入額】

区分	科目	金額	内 訳	摘 要
団体	団体拠出金	¥ 0		事業費の一部を拠出
	小学生実費負担	¥ 12,500	500円×25人	夏休み・段ボールオープン
	小学生実費負担	¥ 3,000	200円×15人	クリスマス会
	自己資金の合計額	¥ 15,500		
市	松戸市負担金	¥ 56,768		
合 計 額		¥ 72,268		

## 【事業費の支出額】

	科目	金額	支出内訳	説明事項（用途など）
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 20,000		講師謝礼 ディープデモクラシー・センター 10,000円 Jワールド 10,000円
	消耗品費	¥ 7,974	文具・小物類	模造紙・付箋紙等会場掲示物作成、コピー用紙等
		¥ 12,817	段ボールオープン 素材・食材	調理体験・食材・ソーラー調理セット
		¥ 6,997	本体 2609 素材 4388	缶バッジ製作キット
	印刷製本費	¥ 9,430	東京カラー 9430	担い手育成チラシ、印刷会社で4色印刷
		¥ 15,050	東京カラー 13040 輪転印刷等 2010	夏休みチラシは、印刷会社で4色印刷 ほか、輪転印刷、コピー機
	対象経費の合計	¥ 72,268		
その他経費				
	その他経費の合計	¥ 0		
合 計 額		¥ 72,268		

## 労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×500円
	打ち合わせ (10回)	30,000 円	3 人 × 2 h × 10 回 × 500 円
	段ボール講師打ち合わせ	4,000 円	4 人 × 2 h × 1 回 × 500 円
	担い手育成連続講座 (2回)	12,000 円	3 人 × 4 h × 2 回 × 500 円
	夏休みプログラムスタッフ (17回)	89,500 円	179 人 × 1 h × 1 回 × 500 円
	段ボールトンネルスタッフ (7回)	32,500 円	65 人 × 1 h × 1 回 × 500 円
	クリスマス会スタッフ	12,000 円	6 人 × 4 h × 1 回 × 500 円
	アートパフォーマンス制作 (3回)	5,500 円	11 人 × 1 h × 1 回 × 500 円
	合 計 (A)	185,500 円	

地域ねこ活動推進事業

まつど地域ねこ会

環境保全課

# 活動状況報告書

1 事業名称 地域ねこ活動推進事業

2 実施主体

■ 団体名： まつど地域ねこ会

従事者数： 10名

団体概要：

本会は「地域ねこ活動」を通し地域住民と、飼い主の居ないねことの共生をめざす事を目的とする。

また、地域ねこ対策のルールに則した地域環境作りを推進する。

本会は野良猫問題を地域全体の問題として捉え、前項の目的を達成するために、事業を実施する。

■ 事業担当課： 松戸市環境保全課

3 事業を実施する上での役割分担

■ 団体の役割

地域ねこ活動に関する情報共有(個人情報含まず)

継続的な地域ねこの管理、把握。

地域ねこ活動セミナー開催、展示会及び当会の事業報告。

■ 担当課の役割

市、作成のチラシ・パンフレットの提供

市、ホームページの提供(団体へリンク)

猫に関する苦情、相談の受付

地域ねこ活動に関する情報共有(個人情報含まず)

不妊・去勢手術費用助成、地域ねこ活動バッチ貸与等

4 事業の内容

①地域ねこ活動啓発チラシ、ポスターの制作の実施

日付	作業内容
5月10日	事業企画打ち合わせ
6月10日	チラシの企画及び計画作成、担当課と協議
6月11日	チラシ案の提出、環境保全課と意見調整、不調
7月	チラシ・ポスターの制作を引き続き協議。

## ② 第1回 松戸市地域猫セミナー&猫トラブル相談会の実施

日 付	作 業 内 容
9月4日	講座企画打ち合わせ
9月10日～	チラシの企画及び作成
9月29日	チラシの印刷
10月10日	松戸駅東口広場でチラシ配布
10月14日	講座準備
10月15日	松戸市地域猫セミナー&猫トラブル相談会の開催 会場：松戸市勤労会館 講師：神奈川県動物愛護協会 常務理事 黒澤 泰氏 NPO法人 ねこだすけ 代表理事 工藤 久美子氏 NPO法人 ふなばし地域ねこ活動理事長 清水真由美氏 参加人員： 54名

## 5 事業成果について

### (1) 事業目的の達成について

計画時に設定した成果目標がどの程度達成されたのかを記載

残念ながら、現状は成果が上がったと言える状態には、至っていない。セミナー参加者数も100名が目標であったが、54名に留まった。

現状では、まだまだ地域ねこ活動が周知されていない為、地域住民の地域ねこ対策への関心が不足していることと考えられる。成果を上げる為には、地域自治会や行政と連携しながら地道な宣伝活動を続けて行くことが必要である。

### (2) 取り組んだ課題の現状について

※解決できたこと、解決できなかったことを記載してください。

- ◆10月の地域ねこ対策セミナーで行なった「猫トラブル相談会」で数件の相談を受け付け解決にあたった。具体的にはオス・メス猫の捕獲、不妊去勢手術、仔猫保護・里親探しなどを行なった。
- ◆餌やりをしている方の住宅周辺でトラブルになり町会長の所へ伺い、地域ねこ活動バッチ申請の為のハンコをもらいに行ったが、「自分の町会では、エサやることは認めない」と拒否された。

- ◆まだまだ、地域ねこ活動が周知されていない為、餌やりに対する理解が少ない。また、無責任な餌やりも多く見受けられる。
- ◆地域ねこ活動の宣伝、普及とともに、緊急の課題として野良猫を減らすことが急務である。市民の大半が無関心の為、野良猫が増え続けている。
- ◆野良猫への不妊去勢手術は、地元のボランティアが自費で行っているのが実情である。

## 6 今後の事業展開

解決できなかった課題にどう対応し、この事業を今後どのように展開していきたいのかを記載

ボランティアだけで問題を解決するには限度があり、行政の支援が不可欠である。

今後は、更に行政と連携し地域ねこ活動に対して理解の出来ない自治会や個人への説得を続けて行くことが必要だと思われる。

そのためには、行政もボランティアもセミナーなどを通じて 情報を共有し勉強を続けることが重要である。

(第6条関係)

### 収支決算書

【労力換算(限度額算入)】

(単位:円)

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	労力換算額(A)	¥ 175,000	¥ 175,000	¥ 0	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
団体	まつど地域ねこ会拠出金	¥ 45,000	¥ 48,326	¥ ▲3,326	対象事業費の一部及び対象外経費を団体の会計より拠出
	寄附金	¥ 25,000	¥ 0	¥ 25,000	当団体への寄附金
				¥ 0	
	自己資金の合計額(B)	¥ 70,000	¥ 48,326	¥ 21,674	
市	協働事業負担金(C)	¥ 225,000	¥ 103,727	¥ 121,273	
合計額(D) = (B+C)		¥ 295,000	¥ 152,053	¥ 142,947	

【支出】

区分	科目	予算額	決算額	差引額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 80,000	¥ 75,000	¥ 5,000	外部講師謝礼 25,000円×3名
	印刷製本費	¥ 100,000	¥ 9,180	¥ 90,820	チラシ印刷 1,000枚
	消耗品費	¥ 15,000	¥ 0	¥ 15,000	消耗品購入の必要が無かった為
	使用料	¥ 12,000	¥ 0	¥ 12,000	環境保全課による公用により使用しなかった
	貸借料	¥ 16,200	¥ 0	¥ 16,200	環境保全課による公用により使用しなかった
	通信費	¥ 26,800	¥ 0	¥ 26,800	領収書を紛失してしまったため
	通信費	¥ 30,000	¥ 22,033	¥ 7,967	ソフトバンクモバイル 協働事業専用電話
	食糧費	¥ 5,000	¥ 9,040	¥ ▲4,040	飲料代・弁当代(講師弁当代・会場用 飲料代)
	対象経費の合計(E)	¥ 285,000	¥ 115,253	¥ 169,747	
(対象外) 其他経費	食糧費	¥ 5,000	¥ 5,000	¥ 0	会員の昼食代 500円×10人
	交通費	¥ 5,000	¥ 5,000	¥ 0	会員の交通費 500円×10人
	通信費	¥ 0	¥ 26,800	¥ 0	領収書を紛失してしまったため
	其他経費の合計額(F)	¥ 10,000	¥ 36,800	¥ ▲26,800	
合計額(G) = (E+F)		¥ 295,000	¥ 152,053	¥ 142,947	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金(C)が、対象となる経費(E)欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金(C)が、自己資金(B)欄に労力換算額(A)欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

精算額	¥ 121,273
-----	-----------

団体名 まつど地域ねこ会

代表者氏名 代表 田島伸浩

## 収支内訳書

## 【事業費の収入額】

区分	科目	金額	内訳	摘要
団体	まつど地域ねこ会 拠出金	¥ 48,326		対象事業費の一部及び対象外経費を団体の会計より拠出
	寄附金	¥ 0		
	自己資金の合計額	¥ 48,326		
市	松戸市負担金	¥ 103,727		
合計額		¥ 152,053		

## 【事業費の支出額】

	科目	金額	支出内訳	説明事項（用途など）
負担金の 交付対象経費	報償費	¥ 75,000		講師謝礼 講師名 工藤 久美子氏 25,000円×1回 講師名 黒澤 泰氏 25,000円×1回 講師名 清水真由美氏 25,000円×1回
	印刷製本費	¥ 9,180	1,000部	広報チラシの印刷代 講演会の実施分 500部配布 駅前配布実施分 500部配布
	消耗品費	¥ 0		消耗品購入の必要が無かった為
	使用料	¥ 0		環境保全課による公用により使用しなかった
	賃借料	¥ 0		環境保全課による公用により使用しなかった
	通信費	¥ 0	はがき、切手代	領収書を紛失してしまったため
	通信費	¥ 22,033	協働事業専用電話	ソフトバンクモバイル
	食糧費	¥ 9,040	セミナー用	飲料代 2856円 弁当代 6184円
	対象経費の合計	¥ 115,253		
その他経費	食糧費	¥ 5,000	500円×10人×1回	昼食代 500円×10人×1回
	交通費	¥ 5,000	500円×10人×1回	交通費 バス乗車運賃 500円×10人×1回
	通信費	¥ 26,800	はがき、切手代	領収書を紛失してしまったため
	その他経費の合計	¥ 36,800		
合計額		¥ 152,053		

## 労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×500円
	まつど地域ねこ会 協 働事業企画会議 (4月5月6月)	45,000 円	5 人 × 3 h × 6 回 × 500 円
	協働事業 チラシ制作会議 (6月7月8月)	45,000 円	5 人 × 3 h × 6 回 × 500 円
	地域ねこ活動 講習会準備会議 (8月9月10月)	45,000 円	5 人 × 3 h × 6 回 × 500 円
	地域ねこ活動 チラシ配り (10月)	10,000 円	5 人 × 2 h × 2 回 × 500 円
	講習会「地域ねこセミナー」 (1回)	30,000 円	10 人 × 6 h × 1 回 × 500 円
合 計 (A)	175,000 円		